学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://www-ce.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　下里豪平
年間500円

異彩を放つ 学生の提言

新たな視点で見る 若者のマナー基準

平成19年度の「学生の提言」の結果が発表された。今回のテーマは低下しつつある若者のモラルを問うもので、「公共の場のマナー（携帯電話のマナーを含む）」だ。また、表彰式は昨年行われ、優秀賞の諸橋久美子さん（人文科学研究科哲学攻博1前期課程）をはじめとする3名に、賞状と副賞が授与された。

昨今、携帯電話の普及に伴い、そのマナーは大いに乱れている。例えば、電車内ではマナーモードに設定するとや、優先席付近で電源を切ることがしばしばアナウンスされている。また、航空機内でも、携帯電話から発される電波が、航空機器および電子機器に影響を与える可能性があるため、電源を切ることについての論文が募集された。

このように現在、あらゆる場面において携帯電話のマナーが問われている。それにもかかわらず、実際には電車内で周囲の目も気にせずに通話をするなど後を絶たない。そこで今回、公共の場のマナー（携帯から服装まで）がテーマとなった。そして、それぞれに対する意識の基準が何であるかが多く活用、電車内で化粧をする女性の増加や、女性が社会進出を関係づけるという、新鮮な切り口から文章を展開している。佳作には、神野妙子さん（人文科学研究科哲学専攻博士1年生）の作品が選ばれた。

今年度の学生の提言について荒川一郎学生部長は「優秀賞となった作品は、自身の経験、新聞記事等をもとに分析を進め、『最終的に』マナーは他人に対する配慮である」という結論に導いているかどうかが評価されました。佳作作品は、日本とフランスの文化の違いに起因するマナー会常任委員会が、それぞれ平成20年度の役員を改選した。昨年の12月1日に行われた。任期は約1年となっている。新たに選出された役員は以下の通り。

（後方左から）荒井一郎学生部長、福井憲彦学長
（前方左から）川島彩加さん、諸橋久美子さん、神野妙子さん

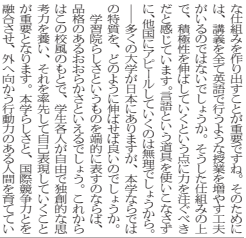
役員改選される 常任委員会

運動部常任委員会
委員長　山本純也（経3・籠球部）▼副委員長兼渉外　田谷亮平（政3・アイススケート部ホッケー部）▼副委員長兼庶務　高山亮子（法3・ラクロス部女子）▼副委員長兼書記局長　山下修平（政3・準硬式野球部）▼会計局長　小山智久（経3・フェンシング部）▼渉外局長兼中南米友好委員長　森貴義（政3・ソフトボール部男子）▼保険局長　松崎紀子（経3・硬式庭球部）▼情報宣伝局長　和嶋さや香（経3・鹿援隊）▼企画　鶴谷潤（法2・観光事業研究部）

文化系同好会常任委員会
委員長　渡邊丰司（政3・集団長兼四大戦副推進局長）▼副委員長　安三輪夏子（心2・地学部・研究部）▼副委員長　田谷翔平（政3・空手道部）▼副委員長　佐野一郎（経3・ラグビー部）▼副委員長　能楽研究会）▼副委員長　郷田健太（経3・ボート部ディギュア部）

文化部常任委員会
委員長　三宅大樹（法2・史学部）▼副委員長　河合浩（法2・写真部）▼会計　保谷田香（経1・映画部）▼渉外　小町階慶（法1・生物部）▼広報　川久保美紀（経1・経済学研究会）▼企画　鶴谷潤（法2・観光事業研究部）

翔春 ～院長から学生へ～


学生生活のあり方を語る院長

近年まで、日本は国際化が進む中、大学というものの姿はばらつきがあるべき。また、そうした環境において、学生はどのような姿勢で大学生活を送るべきなのだろうか。今年は、多数の新院長から新年を迎えるにあたってこれからの大学についてお話を伺った。

――今の日本の現状について、どのように思われますか。

――日本はグローバライゼーションの中に取り込まれつつあります。既に、例えば経済面では外資が東京証券取引所の基本となっているのに、外国人労働者を受け入れる体制は全く脆ってい。それらは国からもっと多くの人を受け入れるようになるでしょうから、様々な文化や行動態様を吸収しつつ、自らの国際競争力を養っていかなければならないと思います。

――国際競争力とは、具体的にはどのような能力なのでしょうか。

――日本人に最も欠けているものといえば積極性でしょうか。大学の授業を受けていても、他の学生は、教師の質問に答えられない時でさえ挙手をして返答の姿勢を見せるが、逆に質問してみると、日本人の場合はどうしてもはにかんでしまいます。答えが分からないのに手は挙げられない、というように失敗を恐れ、何事も行動に出ないままなのです。これからは、自発的に行動して自己の能力を示し、自らの主張をもってこれを披露していくことが、国際競争力となってくるでしょうね。

――ではどうしたら能力を伸ばしていくのでしょうか。

――授業のやり方を変える必要があるかもしれませんね。まず自分で考え、主張と提言をもつように訓練を持っていくことになるでしょうね。そして、英語力が上がるよう――ありがとうございました。

「言葉の『謎』を求めて」

文学部英米文学科　高見健一教授

学習院 研究最前線　学問研究のいま

文の裏に潜む規則

今回は、英米文学科の高見健一教授の『談話の文法』です。先生は現在、理論言語学、そのなかでも特に機能的構文論の研究をされています。現在の研究内容や、至ったきっかけなどお聞きしました。

（取材・構成　勝浦輝考）

◇　◇　◇

比較による研究方法との出会い

先生が大学生の頃、言語学に対するアプローチは、小説などの中から例文を集め、それを分類するはかりの構造言語学に基づく方法であった。ところが大学院に進んだ頃、ハーバード大学の久野暲（くのすすむ）教授の『談話の文法』という本に出会った。

「当時の勉強のやり方にはあまり関心が湧かなかったのです。しかし、久野先生の本では、良いと悪いの文の比較がされていました。丁度、医者が病人を診て健康な人の身体の状態が分かるようにです。そのような先生の方法に大変感かれました」

間違った例文から導かれること

現在の言語学の流れは、意味や機能の側面からも研究する方向があり、先生は、機能的構文論という、1つの構文を統語的、意味的、機能的側面から分析する前者の方法で研究をされている。

「文の意味は、その文を構成する単語の語意からは分からない場合があります。その時、なぜそのような意味になるか考えると面白い規則が導き出されます」

その規則を発見するには、正しい例文だけでは捉えられない。間違った例文も考慮し、初めて法則を見つけ出すことができるという。例えばdance という単語の入った短文2つがある。

そのうちの違いを比べるとすると、それによって、自動詞と他動詞の見分け方が探り当てられるのだ。

「dance は他動詞の場合、後に目語を取り、dance a waltz、でワルツを踊ると訳されます。dance を他動詞と捉えるとthe night away が目的語となりますね。けれど、ずっと夜を踊ると捉えれば意味が通じます。このことからこの dance は自動詞を取らない自動詞であることが判明します。このように、いろいろな構文が単語意味からは分からない場合があります。その時、なぜそのような意味になるか考えると面白い規則が導き出されます」

文法の裏に潜む規則

という単語の入った短文2つがある。

そのうちの違いを比べるとすると、それによって、自動詞と他動詞の見分け方が探り当てられるのだ。

「dance は他動詞の場合、後に目語を取り、dance a waltz、でワルツを踊ると訳されます。dance を他動詞と捉えるとthe night away が目的語となりますね。けれど、ずっと夜を踊ると捉えれば意味が通じます。このことからこの dance は自動詞を取らない自動詞であることが判明します。このように、いろいろな構文が単語意味からは分からない場合があります。その時、なぜそのような意味になるか考えると面白い規則が導き出されます」

その規則を発見するには、正しい例文だけでは捉えられない。間違った例文も考慮し、初めて法則を見つけ出すことができるという。例えばdance

状況に応じた文法

言語の規則は文章の背後に隠れているのです」

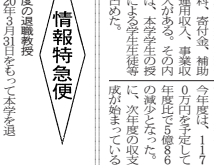
言語学研究は、学会誌などで仮説が試されているという。

さらなる展望

言語学研究は、学会誌などで仮説が発表される。そして、他の学者はその仮説が当てはまらない例と、新しい例を考え、発表し、証明していく。未だ証明されていない規則は無限にあるという。規則に、説明のできない例外が伴われないのだ。

「仮説が当っていれば良いのです。それが間違っていると、お云い批判します。のでは、証明することが重要となります。

本学文学部教授に就任。


先生の著した文法書の数々

ものが見つかる場合もあるのです。その都度、反例を含めた規則を考えるために新しい例文も取り組みます。授業でも、学生達に様々な例を提示し、学生達に言葉の面白さに気づいて貰えたら嬉しいです」

研究により、言語はさらに深く発展する。先生の言語への思いは続く。言葉の『謎解き』は今後も続くだろう。

PROFILE

高見健一（たかみ・けんいち）
東京都立大学文学博士号取得。ハーバード大学言語学科客員研究員、東京都立大学人文学部教授を経て05年より

情報特急便

本年度の退職教授
平成20年3月31日をもって本学を退職される教授は次の通り。

法学科　篠原敏一教授　満口正教授
心理学科
物理学科
学習院大学史料館特別企画上映会
さよならキーピラミッド校舎
～ウルトラセブン上映会
&「ひとりぼっちの地球人」
満田拓寛ライトトークショー
日時：平成20年1月31日（日）
1回目14時～
2回目14時～
場所：中央教室（ピラミッド校舎）
内容：『ウルトラセブン』第29話「ひとりぼっちの地球人」
備考：入場無料、事前申込不要

平成20年度定期健康診断実施日程
平成20年3月31日（月）
日時：4月1日（火）
女子　4年生　大学院生
4月2日（水）
男子　4年生　大学院生
4月3日（木）
女子　3年生
4月4日（金）
男子　2・3年生
4月5日（土）
男子　1年生
4月7日（月）
女子　1年生
受付：9時～11時半
13時～15時半
4月5日（土）のみ15時で終了
場所：西5号館B1教室にて集合

明恕浄抗

在仕組みを作り出すことが重要ですね。そのためには、講義を全て英語で行うような授業を増やす工夫がいるのではないでしょうか。そうした仕組みの上で、積極性を伸ばしていくという志力を住べきだと感じています。言語という道具を使いこなすためにも、世間にアピールしていくのは無理でしょうから。

――多くの大学がはいま本にありますが、本学ならではの特質を、どのように伸ばすべきでしょうか。

――学習院らしさというのは、例えば表彰のような品のあるおおらかなところいうのでしょう。これからはこの校風のもとで、学生各人が目由で独創的な思考を養い、それを率先して自己表現していくことが重要となります。本学らしさと、国際競争力とを融合させ、外へ向かう行動力のある人間を育てていきたいです。

――最後に、学生へのメッセージをお願いします。

――大学時代というのは、多分ご生涯で一番自由な時間なのです。その自由時間を活用して、学生各人が自己の経験を積むために、積極的に行動してほしいです。いろいろな知識や、チャレンジ精神を持って欲しいです。失敗してもいいから知識やってみましょう。部活動なども含めたのような姿勢が、大学で学ぶことに大きな意味を持っていてくることを期待しております。

――ありがとうございました。

役員改選

1・キャンピングクラブ）▼渉外　松岡加奈子（英1・美術史研究会）▼書記　木村朋以（仏1・民族舞踊研究会）▼企画　山本茂香（仏1・国際政治研究会）

支出 増加する

平成19年度予算

平成19年度の学習院全体の収支予算概略が、学部院ごとに掲載された。今年度は、12億7900万円の消費支出超過となっている。

消費収入の部は、帰属収入として学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入がある。その内の約7割は、本学生の授業料などによる学生生徒等納付金が占めた。

平成19年度学習院全体の収支予算概略が、学部院ごとに掲載された。

消費収入の部は、帰属収入として学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入がある。その内の約7割は、本学生の授業料などによる学生生徒等納付金が占めた。

今年度は、114億8700万円を予定しており、前年度比で6億8600万円の減少となった。教職員の人件費に、次年度の収支予算の編成が始まっている。

また、消費収入の部には基本金組入額がある。これは、学習院の各学校が設置する教育研究環境の向上、永続的に維持向上させるために必要不可欠な資産を捉えたものだ。その中には、経常的な施設設備費や図書費、及び現在の「学習院新長期計画」を推進するための施設事業などがある。全体として、今年度の消費収入の部合計は、165億8000万円見込んでおり、前年度比で12億7100万円のマイナスとなっている。

消費支出の部は、人件費、教育研究費、管理経費などがある。その内の約5割は、何も生まれないことは、この2年間で経験済みだ▼この場を借りて、自己改革を宣言したからには、必ず目標を実現させよう。その日を楽見たかった。教職員たちよ、ルバイト情報誌を眺める二十歳の冬である。（順）

翔春 ～院長から学生へ～

今年は、学習院創立150周年の年である。この年を迎えるにあたって、学生の皆様に、学習院の歴史を振り返り、学習院の伝統を受け継ぎ、学習院の将来を担う人材となるよう、ご期待を込めてこのコーナーを設けました。

1 学習院の歴史

学習院は、1847年（弘化4年）に、仁孝天皇の皇子、後の孝明天皇の学問所として、京都に開設されました。

1877年（明治10年）に、華族の子弟を教育する学校として、東京に再開されました。

1884年（明治17年）に、宮内省の管轄となり、皇族・華族・士族・官吏の子弟を教育する学校となりました。

1906年（明治39年）に、学習院は、宮内省から文部省に移管され、一般の子弟も入学できる学校となりました。

1947年（昭和22年）に、学習院は、宮内省から独立し、財団法人学習院となりました。

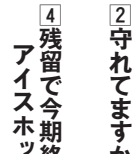
1949年（昭和24年）に、学習院は、新制大学となりました。

2 守れてますか？ 著作権

3 お風呂に入ろう

毎日の活を快いものにしてくれるお風呂。その効能や上手な入浴方法を知り、心身ともに安らげる贅沢な時を過ごしましたか？

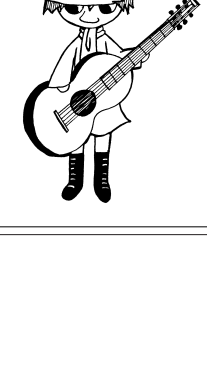
4 残留で今期終える アイスホッケー部



謹賀新年。今年も学習院大学新聞社を宜しくお願い致します。

なんとかメンバーを集め、出場したソフトボール大会。結果、堂々の2回戦敗退だった。最後は皆で、はいツニー！（下）

紙面紹介



著作権を考える

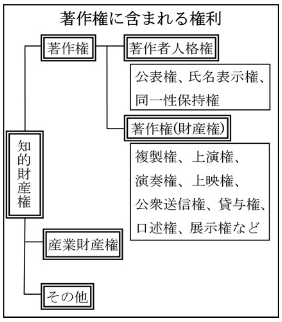
インターネットの導入によって、著作権の対象は年々拡大している。そのため、著作権侵害などの問題も複雑化した。社会の文化を考える上で必要不可欠なこの権利が、どのような働きをするのか調べてみよう。

社会のルール 著作権とは

近年、「著作権」という言葉を耳にすることが多い。これは文化の発展を目的とし、著作物が社会的に保護される権利のことを指す。知的財産権の1つとして法で認められている。

著作権の対象となる著作物は「思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と定められている。つまり有形無形に関わらず、あらゆるジャンルの文化的な創作物に著作権が保障されるということだ。この権利を主張するのに、申請は特に必要ない。何かを創作したその時から著作権が生じることとなる。これを無方式主義といい、日本を含め採用する国も多い。

著作者の権利は著作者人格権と財産権の2つから成る。著作者人格権は自分の作品を公表するかどうか、また氏名の表示についてなどの権利だ。その中には、同一性保持権という無断で著作物を改変されない権利もある。著作者人格権は著作者のみが持つもので、譲渡や相続などはできない。


著作権に含まれる権利

財産権は主に複製する際や、公の場で作品を発表する場合における権利である。こちらは他人に譲ることができ、受け取った人が著作権者となる。

しかし、著作権はいつまでも適用されるわけではない。「一定の期間を経た著作物は文化的遺産として、社会全体で広く自由に利用するべき」という考えに基づき、保護期間が設けられている。原則として50年、映画の場合は70年保護されるのだ。例えば漫画家の手塚治虫氏の漫画は、氏が亡くなった1989年から50年後の2039年まで保護される。その後は自由に利用することが可能だ。

このように複雑な構造を持つ著作権では、いくつか問題点がある。キャラクターの著作権がその一例だ。漫画や小説は保護されても、その登場人物には適用されないというのである。過去には「サザエさん」のキャラクターを無断で使用したバス会社が作者から訴えられる事件もあった。この通称「サザエさんバス事件」は、原告の勝訴で幕を閉じたが、キャラクター全てが著作権で守られるかは曖昧だ。このような事例から見て、まだまだ法整備が必要な分野だと言える。

さて、実際に著作物を利用する際にはどうすれば良いのだろうか。まず、日本で保護されている作品であるか、保護期間中であるかを確かめる。次に、自由に使える場合であるかを確認しよう。私的に限られた範囲や学校教育において利用するときであれば、著作物は自由に使うことができる。以上の条件から著作権が適用される場合は、著作権者に連絡して利用の承諾を得なければならない。これをせず著作権を侵害した場合、権利者は侵害者に対し民事上の請求を行うことができ、さらに告訴して処罰してもらうこともできる。最大で10年以下の懲役などが科せられることから、重大な犯罪であることが伺えよう。

著作権に対する理解や保護の度合いは、その国の文化のバロメーターであると言われる。国際的にも重要視される著作権について、私達は正しく理解しなければならない。それが創作物を享受する上で、ルールとしてもマナーとしても求められるのだ。（筒井久実子）

国内外での問題と対策

ここ数年、国内外で著作権に関する様々な事件が起きている。その具体的な内容と対策について、文化庁にお話を伺った。

近年特に問題となっているのが、著作権を侵害した商品、いわゆる「海賊版」の拡大だろう。その撲滅を目指すべく、文化庁で講じられている対策について尋ねた。「海賊版への法的措置については文化審議会著作権分科会法制問題小委員会の有識者間で話し合われています。その中で、最も効果が期待されているのが、譲渡目的の告知行為の取り締まりです」。インターネット上などに掲載された海賊版の広告が、その売買を助長する恐れがあるため、取り締まりの対象とするのだという。だがこの対策は、適正な広告行為に萎縮効果を招く恐れがある。それらの課題を踏まえつつ、法改正も視野に入れて議論を進めているそうだ。

なお、海賊版一掃のためには、国内のみならず諸外国との協力も必要になる。国外において、文化庁はどのような取り組みをしているのだろうか。「東アジア、特に中国・韓国における侵害状況の改善に努めており、侵害発生国と二国間協議を行っています。さらに、海賊版の横行を阻止すべく、WIPO（世界知的所有権機関）と協力して、途上国を対象にしたシンポジウムの開催や、国民向けの教材の開発など様々な対策を採っています」。日本と諸外国間での制度見直しや、国民への知識の普及などにより、問題を根本から解決する姿勢なのだ。

さて、市民生活の中にデジタル技術が浸透したことによって、著作権のあり方にも変化が生じたという。「社会が急速に情報化した現在、昭和45年成立の著作権法では、対処しきれない問題もあります。それらの解決のために、状況に合った法改正を進めようと審議を行っています」。

また、最近は著作権保護期間の延長をめぐる討論も行われている。保護期間を70年に延ばすよう求める運動が、権利者団体などによって行われ、各方面でその賛否が分かれているのだ。「権利者と利用者、それぞれの主張を尊重し、慎重に論議を重ねています」。その際焦点となるのは、著作権制度の目的である「文化の発展」を促すのはどちらか、ということだ。「技術の発展により、ネット上などで気軽に創作活動を行い、情報を発信する人が多くなりました。そのため、仮に保護期間が70年に延びると、創作の際に過去の著作物を自由に利用できなくなり、新たな創作の可能性を潰してしまう恐れがあるという意見があります。しかし一方では、保護期間が延びることで、新しい著作物の創作への意欲や投資が高まるとの意見もあります」。後世の文化の広がり方に作用し得るため、さらに議論は続くと考えられる。

最後に、著作物を利用する際に学生が留意すべきことを伺った。「デジタル化が進み、著作物を利用しやすくなったため、それらは全て無償で利用できると思ってしまいがちです。ですが、その裏には権利者がいることを忘れないでください」。

権利者と利用者双方のバランスがとれた制度を作ったとしても、それを国民が意識しない限り、事態の改善は見込めない。他者の情報を正しく利用した時に初めて、私達は自身の権利を主張できることを自覚したい。（賀来潤恵）


文化庁の見解を熱心に語る職員の方々

身の回りの著作権

大学では、レポートや論文などの著作物を自ら生み出す機会が多い。では、身近な著作権をどのように守ればよいのか。そこで、本学法学部法学科の横山久芳准教授にお話を伺った。

はじめに、レポートについての著作権を尋ねた。よく授業で言われる、コピー&ペーストは、著作権の侵害で罪を問われるのか。「著作権法の上では、レポートが雑誌など公に掲載される場合を除き、違法ではありません」。しかし、他人の著作物を借用し、自分の見解のように提出するのは、モラルの点で問題があるため、出典を明記するなどの対応を採るべきだそうだ。

授業の場面では、ゼミなどで他人の論文をコピーして配ることがある。これは、著作者に許諾なく複製しているが、問題ではないのか。「講義やゼミで資料として他人の論文を使うために複製するのであれば、著作権の問題は生じません。でも、授業と無関係に大量に文献をコピーしたりすることは許されません」。

情報を得るのに欠かせないインターネットの利用の仕方にも、言及していただいた。「最近の学生は、便利なインターネットに何でも頼る傾向があります。けれども匿名でやり取りされる情報は、信憑性に疑いがあるものも多いため、有益な情報を取捨選択するのが大事です」。まずは、書籍を読み、地道に調べて基礎能力を身に付けたほうがよいだろう。

近年では、私的利用から外れる利用方法も登場している。例えば、自分で動画を配信できるサイトYouTubeや、音楽をダウンロードできるiPod。これらは多くの人に活用されているが、著作権の侵害と言えるのだろうか。それに関して横山准教授は、「一般人が行う場合も不特定多数に向けた発信なので、これらは違法です」と語る。とはいえ、利用者側からすれば無料でたくさんの情報を素早く得られるので、このようなサイトは便利なもの。「将来的には、サイト運営者側と著作者間で協議し、一定の対価を払うなどしてサイトが存続できるようになれば望ましいでしょう」。

さらに、行事に関係する著作権の例を尋ねた。「学園祭でCDを使ったり、楽曲を演奏する時に著作権が関わります。とは言っても、大学などの非営利で行う場合は、無償でやっているので公の許可は要りません」。だが、料金を取ると違反となるそうだ。

また、日本文化の代表と言える漫画の著作権をお聞きした。漫画喫茶や貸本屋は現在どのような位置づけか。「著作者には貸与権があるため、家に持ち帰って読める貸本（レンタル）業を行うには著作者の許諾が要ります。しかし、漫画喫茶のようにその場で著作物を閲覧する場合は、法的に『貸与』にあたらず、漫画喫茶は著作者の許諾なく営業できます」。ただし、漫画喫茶の登場により、著作者が不利益を被るので、改正を考える議論があるようだ。

最後に、学生が著作権を守るために心得ておくことについてメッセージをいただいた。「著作権法に関心を持ち、私人でも著作権を侵害する可能性があるという意識を持つようにしましょう」。何かを発表する際には、著作者に配慮し、限度を超えた複製はしないようにしなければならない。

著作権は、目に見えない権利であるため曖昧で侵害してしまいがちだ。だが、著作権は文化の発展の上で、重要なもの。上手に著作権と付き合う方法を日々考えていくのが大切だ。（木村明子）


著作権のあり方について語る横山准教授

歴史に見る 著作権

社会の情報化が進んだ今、著作権は人類が文化的生活を向上する上で、欠かせない存在となっている。しかし、その権利が現在の形に整うまでには長い時間を要した。ここではその変遷をたどってみよう。

著作権の始まりは、15世紀にグーテンベルクによって発明された、活版印刷機の影響が大きい。当時のヨーロッパは、宗教改革や文芸復興の時代を迎えており、聖書や古典の大量複製が急務であった。印刷機の開発は、これらの要望に答え、世間に急速に広まったのである。その一方で、技術の発達は海賊版や類似の出版物の出現など、新たな問題も呼び込んだ。既に５００年も前に、現在と同じ状況が生まれていたのだ。

時代が進むにつれ各地で規制の動きが高まり、出版物に限らず音楽のような無形物に対しても著作権が波及した。ただし、当時その権利が及ぶ範囲はどの国も国内に留まっており、国外においては適用されなかった。それでは、保護の効果は薄まってしまい意味が無い。こういった時代背景から、「国際的な保護が必要だ」という考えが生まれる。『レ・ミゼラブル』で有名な作家ビクトル・ユーゴーが中心となり、国際的な著作権保護の運動が活発となったのだ。そして、１８８７年ベルヌ条約が締結された。

この条約は、現在でも各国の著作権法の保護水準を合わせる上で、重要な役割を果たしている。だが、当初は問題点もあった。というのも、ベルヌ条約では、無方式主義が採られているからだ。他方アメリカを中心とした中南米の国では、著作権表示、登録などを著作権保護の要件として課す方式主義を採っていた。それでは、条約本来の役割を果たすことはできない。そこで登場したのが、お馴染みの©マークだ。

このマークを表示することにより、たとえ方式主義を採用している国であっても、著作権が保護されるようになった。ただし、後に大半の国がベルヌ条約に加入したため、その存在意義が薄れつつある。現在ではマークが使われるのは、著作権の存在をアピールするという心理的要因が大きい。

生活と密接に関わっている著作権だが、あまりその歴史は知れていない。まずは生い立ちを知ることから、知識を深めてみてはいかがだろうか。（増井亮太）

記者の眼

美しい景観を守るために

先日、家の近くの川沿いを歩いていると、トラックの窓からごみが投げ捨てられているのを見かけた。川の方に目をやってみると、そこには大量のごみが散乱していた。心無いドライバー達が捨てていったものなのであろう。昔から多少のごみは落ちていたものの、その量は年を追うごとに増えているように感じられる。同じような光景は、全国至る所に存在しているようだ。これらはひとえに、人々の道徳心の欠如が招いた結果であるといえよう。

もちろん、皆がごみをポイ捨てするというわけではない。近隣の住民が集まって清掃作業を行うことはよくある。その参加者は、自分達で綺麗にした場所を汚すようなことは決してしないはずである。ところが、その努力とは裏腹に、ただ通りがかった人が「いくら捨てても注意されることはないだろう」といった軽い気持ちでごみを捨ててしまう。このような自分勝手な考えを持っている人がいる限り、現状を改善することは望めないだろう。

一方で、環境保護のために尽力している人も数多くいる。世界的に有名なアルピニストの野口健もその一人である。彼は世界7大陸の最高峰全てを登頂するという偉業を25歳の若さで成し遂げ、一躍世間から脚光を浴びる存在となった。そんな野口さんは、登山の際に行う清掃活動にも力を入れており、精力的に講演会を開いている。そこで彼は、エベレストや富士山で作業に従事したときに直面した、登山者のマナー違反によって汚された山の実態などを語ってきた。環境保全の大切さを必死に訴える彼の熱意には説得力があり、多くの人が心を動かされている。実際にごみが少なくなっている地域もあるという。

人類の生産活動の負の側面である、ごみにまつわる諸問題は、私達と密接な関係にあり、完全に無くすことはできないだろう。しかし、使い捨ての商品を買わないように注意し、エコバックなどを利用してビニール袋を貰わないようにすることで、まずはごみを減らすことができる。そしてなにより、ごみはきちんと家に持ち帰り、分別しなければならない、と心がけることで問題に対する意識は確実に変わっていくはずだ。今後、現在の景観を保持し続けるためには、大きな枠組みで考える以前に、一人ひとりが真剣に向き合わなければならないのではないか。

（日本語日本文学科2年　平野健）

現実を指摘する勇気

アルバイトや学校などで同世代と触れ合う機会は多いが、よく感じることは皆が一様に優しいということだ。何か尋ねれば親切に教えてくれるし、自分が失敗しても大体は笑って流してくれる。いかにも、他者との和を尊重する日本人らしい光景だ。それ自体は我々の個性であり美徳であるし、実際の居心地も良いものであるが、この優しさは他者への無関心に通じているように思える。

優しいということは、個人を尊重し、その違いを認めるということでもある。だがこれが行き過ぎれば、真に他者を思い遣った言動を自ら封じることになってしまう。人に嫌がられることを言い、あの人は優しくない人だ、気が利かない人だ、と思われることを現代人は非常に恐れている。その結果、他人との交流はとても表面的で淡白なものとなってしまう。組織における人間関係でもこれは顕著だ。部下の言うことに耳をひたすら傾け、怒鳴ったりなどしない温厚な上司が時代のニーズに合っているなどとされる。とにかく、波風を立てないことが第一なのだ。

かつて山本七平は、自らの著作である『空気の研究』の中で、日本には伝統的に「水を差す」文化があったことを指摘した。水を差すとは、端的に言えば現実的・長期的な意見を述べて場の調和を壊す行為だ。例えばフリーター達が集い、見果てぬ夢について語り合っているとする。次から次へと輝かしい未来のビジョンが飛び出し、まるで成功は約束されたかのような気になってくる。ところが、ここで醒めた人間が突如「でも、先立つ金がないよなあ」などと言って皆を厳しい現実に引き戻す。場は一時白けてしまい発言者は顰蹙を買うが、解決すべき問題を客観的に把握することはできるだろう。さらに、できもしないことのために労力を浪費することもなくなる。しかし、こういった些細な対立さえ避けられがちなのが実態だ。また、敢えて嫌われ役を買って出る人間を評価する精神的土壌も失われ、大局的な視野を持った者がますます活躍しづらくなっている。

このままでは多くの人間が関わりたがらない問題が放置され、社会の病理は深まっていくだろう。今は表面的な柔和さを捨て去り、耳に痛かったとしてもしっかりと将来を見据えた意見が言える「空気」が必要なはずだ。

（法学科2年　澁谷毅士）

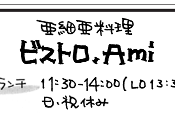
編集後記

古い書籍からは先人の思想や作品を学び取れ、最新の情報はインターネットを通して調べられる。今は昔に比べ、たくさんの情報を自由に閲覧し、利用することが可能になった。しかしその分、著作権法についてよく理解していないと、法律に違反しかねない。そこで、今号では「著作権」を特集した。

今回の取材を通して、モラルというものを意識することの大切さに、改めて気づかされた。日本の現状では、法律で直接的に取り締まるというよりも、各人の判断に任されている部分が大きいからだ。そのため、著作物を利用する際には、個々人で常に著作者へ対して気を配るようすべきだと思う。

この特集において紹介した記事の中には、基本的な内容も多い。けれども、基本こそが重要にして一番守るのが難しい。だからこそ、日々の生活の時から、著作権を侵害していないか確認するようにしてほしい。今号によって、著作権とはどのようなものであり、どう対処していくかについて、考える契機となれば幸いである。（木村明子）

企　画	木村　明子
構　成	増井　亮太
レイアウト	筒井久実子
取　材	賀来　潤恵



私の回顧録から ～page 8～

理学部物理学科
高橋　利宏　教授

大切なものを掴めた日々

今回は、物理学科の高橋利宏教授の登場です。先生の学生時代の思い出は、どのようなものでしょうか。

慌ただしかった大学時代

僕が学生の頃は大学紛争の真っ只中で、3年生の頃は授業がほとんどありませんでした。その渦中で歴史にも残る東大安田講堂攻防戦を体験しました。僕は活動家ではありませんでしたが、クラスの討論会に参加し、大学の自治やその社会的な役割について真剣に議論しましたね。ストが解除された時は強い敗北感を感じたものです。

研究の魅力を知って

その後、僕は大学院に進学しました。理由は、ストの後遺症もあってかいささか曖昧でしたね。大学院に入って初めて研究の楽しさを実感しました。僕が実験していたテーマを後輩が理論的に解析する研究をしてくれたのです。その際、理論と実験が同時に発展する様を体験することができました。自然科学の実験の多くは、それまで誰もしたことがないものです。つまり、自分がその事実を世界で最初に確かめることができるのですよ。そこに面白さを感じて、今もそのような研究を続けています。

歌手を体験

大学院に入ってから、僕はボランティアに参加するようになったのですが、子供達とキャンプに行った際にたまたま披露した自作の歌が、参加していたNHKの人に目を付けられました。そしてFM放送に出演、レコードが出て、「みんなのうた」にまでなったのです。『おでんの唄』というちくわが主人公のたわいのない歌です。レコードなので今は聞けませんが、貴重な経験でした。

学生時代にはクラブ活動にも熱中していたし、もっと勉強しておけば良かったかなと思うこともありますが、それだけでは社会のことは学べなかったでしょう。決して暖かい気持ちになる思い出ばかりではありませんが、どれも捨てがたい大切なものです。（取材・構成　須野原遼）


若き日を振り返る高橋教授

PROFILE

1970年東京大学理学部物理学科卒。同大学院理学系研究科物理学専門課程修了。筑波大学技官、パリ南大学固体物理学研究所研究員を経て、83年学習院大助教授、89年から現職。

お風呂で過ごす冬のひととき

寒い季節に、体も心も温めてくれるお風呂。今回は、そんな入浴時間をより充実させる方法を紹介する。疲れを癒し、日々の健康を助けているお風呂に、改めて目を向けてみよう。

いにしえより続く歴史

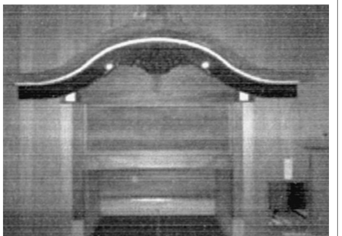
日本人が大好きな入浴。その原型は、日本の成り立ちについて書かれた奈良時代の書物に記されている。黄泉の世界から帰ったイザナギノミコトが、禊ぎを行ったという記述だ。今や日常生活の一部となっている入浴の歴史は、実はとても古いものなのだ。

そしてその間、お風呂も様々な変貌を遂げてきた。現代のものは、浴槽に張ったお湯に浸かるタイプである。しかし、かつてはお風呂というと蒸し風呂のことを指し、古くから岩窟を利用した蒸気浴が行われていた。一方、温水に浸かる沐浴の方は湯と呼ばれ、今で言う温泉のことであった。これは、傷を負った鹿や熊が沢に浸かっているのを、里人達が発見したことから始まる。動物の行為を不思議に思った彼らは、この水が温かいことに気づく。やがてその効能を知り、真似をして入るようになったのだ。このように、入浴の習慣は古くから心身の洗浄の目的で、特定の地域ではあったが、日本各地に存在していた。

現在のような湯に浸かる習慣が本格的に定着したのは、6世紀頃に伝来した仏教のおかげである。仏教では、汚れを落とすことは仏に仕える者の大切な仕事として、沐浴の重要さを説いていたのだ。聖徳太子が仏教を歓迎した影響で、寺院に湯屋が作られていく。また「入浴によって七病を除き七福を得る」という教えによって、多くの人が利用するようになった。寺院での施浴は、温泉から遠く離れた土地に住む一般大衆に、大いに喜ばれた。このように、入浴は日本に浸透していったのだ。

こうして、奈良時代から広まりを見せたお風呂は、やがて移動可能な据え風呂へ発展していく。これは個人の家に置くもので、長州風呂や鉄砲風呂と呼ばれた。だがそれは上層階級の人々に限られたものであった。庶民達は、湯を沸かすための燃料や水を安く豊富に入手できず、風呂桶を置く場所すらなかったのだ。そのため彼らは、たらいを使用した行水を行った。

江戸時代になると、ついに銭湯が登場する。当時、銭湯の浴槽の入り口は天井から床までの半分以上を板戸でふさぐ、「柘榴口」というデザインが成されていた。このため、人は腰を屈めて湯船へ入らなければならなかった。加えて、この板戸が外からの光を遮ったために浴室は薄暗く、その上湯気が立ちこめており、浴場の中はほとんど何も見えなかったという。そのようなものをなぜ設置したのかというと、浴室の蒸気を逃がさないようにするためだ。保温効果と共に燃料削減にも役立ち、なかなか機能的であったようだ。


柘榴口（出展　ウェブサイト「洗いの殿堂」）より

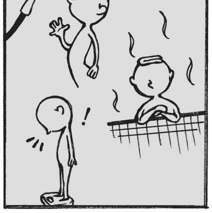
さらに、お風呂は体を清めるためだけでなく娯楽としても栄えた。銭湯は人々の交流や情報収集の場であった。また、据え風呂を人通りの多い道に置き、入る人に三味線や口上を聞かせて楽しませる「辻風呂」が登場。他にも船の中に浴槽がある「湯船」や、花見の席に据え風呂を持って行き、浸かりながら花を愛でる「花見風呂」が現れた。

はじめは心身を清めることが目的で誕生した入浴は、時の流れとともに娯楽として変化し、心と体の疲れを癒すものへと変遷を遂げた。それは形を変えながら日本の習慣として定着し、今も日本人にとって欠かせないものとなっている。（須野原遼）

お風呂と体のメカニズム

お風呂は、体の汚れを落とし、さっぱり清潔にしてくれる。しかし、その役割はこれだけには留まらない。湯船にゆっくりと入って温まった後には、体が軽くなったような気分がすることが多々あるだろう。日々の入浴は、私達の健康を密かに支えてくれているのだ。それでは、お風呂が体に与える効果とは、具体的にはどのようなものなのだろうか。

まず入浴には、主に3つの作用がある。最初に挙げられるのが「浮力」だ。水中では、浮く力が働くため体が軽くなる。体重が60キロの人でも、湯船に入ればなんと約6キロの軽さになるという。そのため、空気中で体を動かすときよりも、ずっと楽に体を動かせるのだ。体の重さから解放されて、普段体を支えている筋肉や関節への負担も少なくしてくれる。そのため、痛みがある部分でも、スムーズに曲げ伸ばしができる。関節痛などの症状があるときには、お風呂の中で運動をすると効果的だろう。



2つ目の作用は「水圧」だ。長くお湯の中に浸かっていると、体は全方向から圧力を受ける。これによって、まるで天然のマッサージを受けているような状態になるのだ。水圧は皮膚だけでなく、皮膚の下の血管も押すので、血液の流れが良くなる。そして湯船から上がったときに、体が水圧の影響を受けなくなり、手足の先まで綺麗な血液が行きわたるのだ。ただし、急に立ち上がると貧血を起こすこともあるので、注意が必要。お風呂に入ると次第に体の疲れが取れるのは、この水圧のおかげだと言える。

最後に、入浴の最大の効果であるのが「温熱」による作用だ。熱い湯に入って体が温まると、血管が広がって血行が良くなる。新陳代謝に必要な栄養分は全て血液でできているので、血の巡りが良くなればなるほど、体は元気になるのだ。さらに、腎臓の働きが活発になり、尿の量が増えるため、体の中の老廃物や疲労物質をより多く体外へ排出してくれる。これによって、様々な体の痛みが和らげられる。お湯に浸かるというだけで、体に良い影響は数多くあるのだ。

また、温熱作用は自律神経の仕組みにも影響を及ぼす。湯船の中に体を入れると、そのお湯の温度によって、交感神経と副交感神経の働きに違いが出てくるのだ。熱めのお湯に入ると交感神経が作用して、体を活発にする。一方、ぬるめの湯に入ると副交感神経が機能し、体を落ち着かせ、休めさせる。そこで、寝覚めの悪い朝には熱いシャワーを浴び、熟睡したい夜にはぬるめに設定することをお勧めしたい。そうすれば、入浴次第で体の状態を調整できるだろう。

このように、お風呂の習慣は知らず知らずのうちに、私達の健やかな体づくりに役立っていたのだ。また、何より裸になって湯に浸かるという開放感も、日頃のストレスを取り除いてくれているのだろう。心身ともにリラックスさせ、健康へと導いてくれるお風呂。その効能を再認識し、充実した入浴生活を楽しんでみてはいかがだろうか。（市川美奈子）

効率の良い入浴を学ぶ

お風呂の効能を知っていても、間違った入り方ではその効力は十分に発揮されない。賢い入浴の知識を得るべく、東京ガス都市生活研究所所長の早川美穂さんにお話を伺った。

お風呂の長所の一つは、簡単に体を温められることだ。しかし、ただお風呂に入れば良いというものではない。一般的には、熱いお湯に長く浸かるのが好ましいようなイメージがあるが、実際のところはどうなのだろう。「体の芯まで温めるためには、血液を全身に均等に巡らせなければなりません。そのためには、ゆっくり浸かることが大事です」。具体的には、お湯の温度は38～39度、深さはみぞおちの辺りを目安にすると良いそうだ。

お湯が熱すぎると、すぐにのぼせてしまうため、体内の血液を十分に循環させられない。つまり、体の表面が温まっただけで、内臓まで熱が行き届いていないのだ。そして、お湯の中では常に静水圧がかかっているため、深く浸かりすぎると体が緊張状態になってしまうそうだ。そこで、適度な温度と水量に調節することが必要となってくる。

また、ゆっくり浸かることも重要だが、行き過ぎた長風呂はかえって体に悪影響だという。どのくらいの時間が適切なのか尋ねると、「額に汗が浮かぶくらいを目安に、20分程度の半身浴を心がけると良いです」とのこと。むやみに長く入るよりも、そうした方が心身へのリラックス感も得やすいようだ。中には、美容のためにあえて長風呂するという人もいるだろう。しかし、20～30分の間、こまめに水分を補給しながら入浴すれば、十分な効果が得られるのである。

ところで、ついお湯の温度に気を取られてしまいがちだが、早川さんは浴室の温かさも気をつけるポイントだと指摘する。「ベストな湯加減も、お風呂場の温度によって微妙に変わってきます。特に冬場は、浴室を温かく保たなければなりませんね」。やはり体を内側まで温めるためには、寒いと感じない室温に保つことが肝心なのだ。浴室に窓があると、そこから冷気が入りやすいので、カーテン代わりの布などを掛けると良いそうだ。「浴室暖房があるのが一番です。もしなければ、シャワーで湯船にお湯を張って室内を温めるとか、半身浴時に乾いたタオルを肩にかけるなど工夫しましょう」。同時に、湯上りに体を冷やさないよう心がけることも重要だ。そのためには、当然ながら水分を拭き残さないよう徹底したい。

冬は特にそうした気配りもいるが、基本的な入浴の方法というのは年間通して大きな差異はないのだという。だが、「季節ならではの工夫もあります。例えば、夏は薄荷を浸したり、冬はミカンの皮や柚子を浮かべたりするのがお勧めです」と早川さんは提案している。薄荷は風呂上がりの汗を抑える働きをしてくれ、ミカンや柚子は保温や血行促進効果などを一層高めてくれる優れものだそうだ。


効果的な入浴の方法を語る早川さん

そのほか、シャワーの活用法も教えていただいた。「特に温めたい部分や、凝っている部分などには、強めのシャワーを当ててください。そうすることで、マッサージ効果も得られます」。さらに朝のシャワーは、体臭を抑えるのにも役立つ。熱めのお湯を、マッサージには2、3分、体臭予防には1分浴びるだけでも効果があるという。

最後に早川さんは「近頃は、冷房のせいで夏でも冷えを感じたり、都会での生活にストレスを感じていたりする人が多いのではないでしょうか。そういう人達こそ、お風呂を上手く活用してほしいですね」と語ってくれた。せっかく入るなら、より温まることができ、より気持ちよくなれる方が良いだろう。今日からでもすぐ実行できる入浴術の数々、ぜひ試していただきたい。（美馬香織）

バスルームを快適に！

毎日お世話になるお風呂。だからこそ、日々の入浴タイムは楽しく快適に過ごしたいもの。ここでは、そんな願いを叶えてくれる、優れもののバスグッズを紹介しよう。

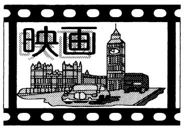
お風呂で思いきりリラックスしたい――そんな時には、バス用枕が最適だ。この枕には吸盤があり、浴槽の縁に自由に付けられる。これがあれば、首を痛めないでゆったり半身浴や寝浴ができるのだ。また、お風呂場の雰囲気をがらりと変えたいのなら、バスライトやキャンドルがうってつけだ。照明を暗くしてこれらを湯船の上に浮かべれば、バスルームはほのかに明るい癒しの空間に。蛍の光のような温かい灯りが、気持ちを和ませてくれる。さらにアロマキャンドルなら、ナチュラルで上品な香りに包まれて、極上の気分に浸れるはずだ。

お湯に浸かる時間を有効活用したいのなら、バスブックスタンドが便利。バスタブの蓋にスタンドを乗せ、本や雑誌を差し込む仕組みになっている。これがあれば、本を濡らさずにお風呂で読書が楽しめる。

頭の運動のみならず、体のエクササイズもしたい、という場合にはお風呂ダンベルを使おう。このダンベルの特徴は、お湯の浮力を利用する点にある。使い方は普通のものと同じだが、お風呂の中で浮力に逆らって上下するので、腕と二の腕の両方を効果的に鍛えることが可能だ。他にも、健やかな体づくりをサポートしてくれるものに、ゲルマニウム温浴器がある。この入浴法は、42～43度のゲルマニウム溶液に入ることで、体内に大量の酸素を作り出すことができるというもの。短時間で発汗が始まり、大量の汗をかくことができるという、現在とても注目されている健康法だ。この温浴器は、吸盤で浴槽に固定したり、蛇口に吊り下げたり、浴槽の底に置いて使用する。リーズナブルな値段のものもあるので、ぜひチャレンジしてみてはいかがだろうか。

多種多様に展開されているお風呂グッズ。これらのアイテムを活用し、時にはバスタイムの過ごし方をひと工夫して、心地良いひとときを演出してみよう。（小室真衣子）

取材・構成
市川美奈子
小室真衣子
須野原　遼
美馬　香織



ピューと吹く!ジャガー

THE MOVIE

監督　マッコイ斉藤
出演　要潤／大村学
2008年／日本／99分
配給　ハピネット

週刊少年ジャンプで連載中のギャグ漫画が、実写で映画化を遂げた。原作は小中高生のみならず、20代の若者にも人気を博している話題作だ。

主人公の酒留清彦（大村学）はプロのギタリストを志望し、バンドのオーディション会場にやって来た。するとそこには、たて笛を片手にギタリスト達と揉めている謎の男がいた。この人物の名はジャガージュン市（要潤）。彼との出会いが、清彦のその後の人生を大きく左右することになる。

ジャガーの騒動のせいでオーディションが中止になり、他に進路がない清彦は仕方なくうさんくさい芸能人養成所に入所する。しかし、所長に騙され、ギターとは全く関係のない「ふえ科」に入れられる羽目に。しかもそのふえ科の講師こそ、あのジャガーなのであった。ジャガーに「ピヨ彦」と命名された清彦は、極端に個性豊かな他の生徒達と共に過ごさなければならなくなってしまった。そんなある日、突如としてふえ科に存続の危機が降りかかる。ふえ科の生徒達が学費を滞納したために、養成所は大赤字になってしまったのだ。ふえ科を救うには、数千万もの大金が必要だという。大金を工面するため、ジャガーらは数十億円もする世界的な珍笛などの美術品強盗を計画する。乗り気でない清彦も渋々計画を実行するものの、運悪く本物の強盗団が現れてしまう。果たして彼らはふえ科を救えるのか。そして珍笛入手をもくろむ謎の集団との対決の行方は――。

この映画の楽しみ方は十人十色だ。原作ファンなら、漫画とはまた違った面白さを探すもよし。原作を読んだことのない人でも、独特な世界観に浸かってみるのも良いだろう。役者陣もその独創性を生み出すのに一役買っている。ジャガーを演じる要潤は、かなりのはまり役である。そのジャガーに振り回されっぱなしの清彦役の大村学も、鬼気迫る熱演ぶりであった。また、突然始まるダンスシーンなど、とにかく予想のつかない展開に、最後まで飽きを感じさせない作品だ。

（美馬香織）


12日よりシネ・リーブル池袋他にて全国公開

社告

CAMPUS GUIDE

募集のお知らせ

キャンパスガイドでは、学内外で行われる部活動およびサークルのイベントを紹介しています。

多くの学生が目を通す大学新聞にあなたが所属する団体の情報を掲載してみませんか？

学習院大学新聞社　3面

CAMPUS GUIDE

●写真部
「写真部2月展」
日時：2月23日（土）～26日（火）11時～17時
場所：池袋オレンジギャラリー
料金：無料
内容：頑張りますので、ぜひご覧ください。

●観光事業研究部
「渉外合宿（スキー・スノボ旅行）」
日時：2月25日（月）～28日（木）
場所：赤倉温泉　ハートウォーマー（新潟）
料金：約25000円
内容：外部の人でも参加できます。アットホームな雰囲気が自慢の部活です。一緒に冬の思い出を作りましょう！未経験者も大歓迎です。

●軽音楽部
「2月定期演奏会～最聖～」
日時：2月27日（水）14時30分～
場所：東高円寺　Los Angels
料金：500円
内容：代替わりの早い軽音楽部が、新しい代になってから行う最初のライブです。2年生が主体です。学習院随一の熱い演奏をお楽しみください。お待ちしております。

●音楽部
「卒業演奏会」
日時：3月7日（金）14時～（予定）
場所：百周年記念会館
料金：無料
内容：4年生にとって最後の演奏です。皆様どうぞお越しください。

輝き見せた本学守備陣

理想的な試合運びで勝利
アイスホッケー部

去る12月9日、ダイドードリンコスタジアムにて、関東大学アイスホッケーリーグの3部4部入れ替え戦が行われた。3部リーグを7位で終えた本学は、4部リーグ2位の東京理科大と対戦。本学は各ピリオドで得点を挙げるとともに、GKを中心とする守備陣の活躍もあり、終始一方的な試合を展開する。結果、4－1のスコアで圧勝し、見事に残留を果たして有終の美を飾った。

華麗なパスで相手を翻弄し、勝利に貢献した日向野選手（右）

大塚洋平主将（政4）は試合前に「今回で4年生は引退なので、なんとしても3部残留で最後を締めくくりたいです」と意気込みを語った。本学は、坂本太樹選手（政4）と渡辺浩輝選手（哲3）がそれぞれマンマークで理科大の二人のエースを抑えることを課題として、大一番に臨んだ。

開始直後、六所圭祐選手（心4）が単独で相手陣地に攻め上がる。1分と経たないうちに、センターライン手前から放った六所選手のシュートが理科大ゴールを揺らした。幸先良く先制点を奪取したが、失点に焦る理科大の反撃が始まり、連続でシュートを打ち込まれてしまう。しかし、GKの田谷亮平選手（政3）のセーブでゴールを割らせず、1－0のまま第1ピリオドを終えた。

続く第2ピリオドでも六所選手が起点となって、理科大ゴールに迫る。3分、相手の一瞬の隙をつき、大塚主将が坂本選手のアシストを受け追加点を挙げた。このピリオドでは吉田朋広選手（済2）の守備での活躍が目立ち、相手エースを完全に抑えつけて、シュートを打たせなかった。

最終の第3ピリオド、本学はなおも攻勢を崩さない。日向野孝仁選手（営3・ひがの）と布田選手を中心に、巧みにパスを繋いでゲームを支配する。この攻撃が理科大のファールを誘い、再びチャンスが訪れた。反則をした選手は2分間ペナルティボックスに入らなければならないため、一時的に人数に差が出る。本学はこの機会を逃さず、2分に布田選手のパスが坂本選手に通り、ダメ押しの3点目を決めた。

ところが、リードが広がり油断が生まれたためか、直後に失点を喫してしまった。この得点で勢いづいた理科大はさらに猛攻を見せる。本学は決定的なシュートを何度も受けるが、田谷選手が全てシャットアウト。彼のファインプレーに応えるように7分、本学は攻撃で手薄になった理科大守備網を縫うようにパスを回し、相手陣地に攻め込む。ゴール前にまでパックを進めると、吉田選手のシュートが見事に入り4－1となった。

後のなくなった理科大は、GKをも動員して強引に本学ゴールに迫る。しかし、本学守備陣の堅守が得点を許さない。相手は次第に苛立ちが募り、ラフプレーが目立つようになる。その間にも本学のディフェンスは隙を見せない。このピリオドでもやはり田谷選手のセーブが光り、終了のブザーが鳴るまで得点が動くことがなかった。本学は晴れて3部残留を勝ち取った。

試合後、「相手に合わせず練習でやってきたことを徹底したので、自分達のペースでプレーができました。それが今回の結果に繋がったと思います。また、田谷選手の再三の好セーブが勝敗を分けました」と勝因を話してくれた大塚主将。最後に「来年は上の入れ替え戦という晴れ舞台で戦って欲しいです」と後輩へエールを送った。その期待に応え、本学は来期の2部リーグ昇格を目指す。

（水上諒）

渾身の走り及ばず

自転車愛好会

本学で唯一40kmを走り抜いた鈴木選手（中央）

昨年12月9日、国営昭和記念公園にて全日本学生クリテリウムが開催された。このレースでは1周5kmのコースを8周走る。スプリントと呼ばれるスタート地点を通過する際の順位に応じて、7周目までは3位、8周目では10位までポイントが与えられ、その合計で勝敗を決定する。本学からは5人が出場。鈴木禄徳選手（済2・よしのり）は都内の大会で数々の好成績を残しており、今大会でも上位を目指している。また亀山沙織里選手（政1）も、本学唯一の女子選手としてどこまで実力を発揮できるか注目を集めた。

スタートフラッグが振られ、ついにレースが始まる。序盤から日本大を中心にペースアップが図られ、激しい勝負が繰り広げられた。

ロードレースでは、速いときには時速60km近いスピードが出る。そこで、風圧や他選手の接触からエースを守る周りの選手の活躍が勝利への重要な鍵となる。本学も5人で得点を狙うが、なかなか先頭陣を捉えられない。しかも本学選手に落車やクラッシュに巻き込まれる不測の事態が起こる。そして3周目から鈴木選手一人で走らざるを得ない状況に追い込まれた。

そのため鈴木選手は先頭集団の後ろに付き、最後に追い抜くという作戦を採った。6回目のスプリント前でスピードを上げ、トップを狙っていく。日本大と順天堂大との競り合いになり3位通過となったが、これで2点を挙げた。依然として各大学の選手とも1桁代しか獲得していない状況が続いていた中、この得点は大きい。最終周では1位に15点が与えられるため、逆転優勝も十分あり得るのだ。

しかし、7回目のスプリントでは惜しくも3位以内に食い込めなかった。さらに、スプリント直後で他大の強豪選手に逃げを許してしまう。先頭から遅れを取ってしまった鈴木選手は、第2集団から追い上げを試みる。ところが最終スプリント直前で他選手と接触し、前輪が曲がってしまうアクシデントが発生。そのまま加速できず、鈴木選手の持ち点は2のままで、表彰台には届かなかった。

コーナーが多く、接触などが起きやすいコースを一人で走らなければならなかったのが厳しかったと鈴木選手は振り返る。「これからはチーム全体の力の底上げが必要ですね。ただ今回自分はアシスト無しで得点できたこと、また亀山選手はリタイアしたものの良い走りを見せたことは収穫でした。年度内に残っているクリテリウムでは入賞を狙っていきます」と、鈴木選手は気持ちを切り替えて、次の大会に焦点を当てている。新たなタイトル獲得を目指して走り続ける彼らの活躍に、今後も目が離せない。

（和田恵理子）

全国での熱戦

剣道部男子

大将としてチームを牽引した石崎主将

平成19年10月28日、第55回全日本学生剣道選手権大会が日本武道館にて行われた。この大会を目指して、苦難の道をひた走ってきた本学剣士達。予選である関東大会においては、敗者復活戦の大将戦で劇的に勝利し、本大会への出場権を手にした。これは実に10年ぶりの快挙である。推薦制度により強者がひしめく地区で、彼らの血の滲むような努力が報われた結果だ。そして静けさが会場を支配する中、ついに全国での戦いが始まった。

初戦の鹿児島大との試合では、次鋒の神山聡志選手（日2・こうやま）が奮闘を見せた。先鋒が二本負けを喫し、これ以上相手を勢いづけることはできない場面。彼は虎視眈々と攻撃の機会をうかがっていた。そして開始3分58秒、素早く面を決めて一本勝ちを収めた。これで勝ち数が並び、後続の負担が一気に減ったことで勝負の行方は分からなくなる。

続く4人は引き分けとなり、勝敗は大将戦に委ねられた。ここで石崎哲理主将（済4）の出番である。ここまでは鹿児島大が勝ち本数で勝っており、引き分けてしまうと本学の敗北となる。なんとしても一本が欲しいこの状況で、彼は意地を見せた。開始45秒、石崎主将は相手の虚を突いて小手を抑え一本を取る。これでチームの形勢は逆転、主将は制限時間まで粘って勝利し、とうとう2回戦進出が決定した。

続いては富士大との対戦である。先鋒の正田峰仁選手（政3）がしっかりと二本勝ちし、流れは本学に向いているように見えた。ところが、選手達は慣れない大舞台の雰囲気に呑まれてしまい、実力を出せないまま次々と敗北。残念ながら、本学は上位入賞を果たすことはできなかった。

石崎主将は「やはり、経験の差がものを言いました。対戦校とそれほど実力差があったとは思えません。ぎりぎりの勝負では、精神面も重要な要素なのだと改めて実感しました」と振り返る。しかし、全日本で戦ったという大きな下地はできた。これを活かし、本学は来年も大進撃を続けるだろう。

（澁谷毅士）

頂点に立つ

キックボクシング部

去年の11月17日、後楽園ホールにて全日本学生選手権決勝戦があり、須藤雄大選手（政4）がバンダム級に出場した。本学の学生がこの舞台に立つのは初めてのことである。全国から応援に駆けつけた友人らの大歓声を浴びながら、颯爽と入場する須藤選手。相対するのは、國学院大の飯田祐介選手である。

開始直後から、須藤選手はリーチの長さを生かし、キックを中心に攻めていく。だが相手も踏ん張り、両者一歩も譲らぬまま、瞬く間に第1ラウンドを終えた。続く第2ラウンド、須藤選手はパンチを受けた右腕を押さえる場面もあったが、すぐに立ち直ってみせる。前ラウンドと同様、互いに大きなダメージを与えられず、決着は最終ラウンドへもつれ込むことに。

インターバルを挟んだ後、いよいよ運命のゴングが鳴り響く。ここでも拮抗した内容で試合が進むが、2分過ぎに分岐点となる場面が訪れた。相手がパンチを放とうとした瞬間、須藤選手のカウンターが炸裂。ダウンこそ奪えなかったものの、右ストレートを顔面に浴びた相手は膝を落とした。攻めの姿勢を崩さなかったことが、ついに結実したのだ。こうして、須藤選手が優勢なまま戦いは幕を下ろした。そして、勝敗は判定に委ねられることに。その結果、須藤選手に軍配が上がり、見事にバンダム級チャンピオンの称号を手にした。

積極果敢に仕掛ける須藤選手（右）

激戦の後、須藤選手は「終盤に決めたカウンターで、勝利をたぐり寄せたと思います。苦しい闘いでしたが、大声援の後押しもあり、前に出る気持ちを最後まで持つことができました」と力強く語った。須藤選手にとってこの一戦が格闘技人生最後となるが、彼の熱い闘志は後輩達が受け継いでくれるはずだ。キックボクシング部のさらなる飛躍に期待したい。

（宮川雅志）

FLASH BACK

ヨット部
杉原　健太郎さん（政3）

苦境乗り越え
掴んだ栄光

杉原さんが初めてヨットに出会ったのは、入学直後のことであった。競技の内容さえも満足に知らなかった彼が入部を決意したのは、チャレンジすることに惹かれたからだ。「先輩方の全員が大学からスタートしたと聞き、新しいことに挑戦していく姿が魅力的に映りました」と、競技に取り組み始めるきっかけを語ってくれた。

そんな杉原さんにとって、2年の秋季インカレは深く心に刻まれている。この大会で7位以内に入れば全日本大会に進出できるが、本学はここ20年間、あと一歩で出場権を逃してきた。だがこの年、2日目が終わった時点で、7位という好位置を維持。そして最終日を迎えたが、当日は強風が吹き荒れる悪天候であった。それにめげず、先輩とともに前へと突き進んでいく杉原さん。ところが、悪条件の中で精神・肉体の両面をすり減らしていた杉原さんはミスを犯してしまい、なんと船は転覆。「とても厳しい先輩なので、怒鳴り声が飛んでくると思いました。でも励ましの言葉をいただいて、ここから絶対に逆転するんだ、という気持ちが強まりました」と、その場面を思い起こす。

その後、二人で船を起こして追い上げを図るも、さらにセイルが破損するアクシデントまで発生してしまう。それでも望みを信じ、最後まで必死に踏ん張り、ついにゴールへ到達。その瞬間、レスキュー艇に乗っていたコーチが本学の旗を広げた。念願であった、全日本大会への扉が開かれたのだ。

競技終了後、杉原さんは先輩から「お前がいてくれてよかった」と声をかけられ、熱いものがこみ上げてきたという。「練習が厳しく、辞めたいと思ったこともありました。しかし、今までの苦労が全て報われたと実感しましたね」と感慨深げに振り返ってくれた。

3年生となった現在、上級生の立場から部を支えている杉原さん。彼には、下級生との間で遵守していることがある。それは普段、友人同士のように仲が良かったとしても、プレー中だけは上下関係を崩さないようにすることだ。自己鍛錬と同時に後輩の指導にも尽力する杉原さんは、本学ヨット部を再び全日本大会へと導く。

（宮川雅志）

TOPICS

その他の試合結果

【サッカー部】▼新人戦▽対海洋水産大6－0▽対山梨大1－1PK1－3

【バレーボール部男子】▼全日本バレーボール大学選手権▽対名城大0－2▽対千葉大2－1▽対愛媛大0－2

【アメリカンフットボール部】▼秋季リーグ2部3部入れ替え戦▽対首都大学東京48－7　2部残留決定

【ラグビー部】▼関東大学対抗戦B▽対東京大21－23▽武蔵大17－43▽立教大14－10▽明治学院大26－24

【馬術部】▼第45回関東学生馬術女子競技大会▽団体戦　5位入賞

デスクの片隅

「何とかなるさ」これは私の好きな言葉の1つである。苦境に立たされた時も、今までこの精神で幾度となく乗り越えてきたように思う。しかし、この考えは大きな失敗に繋がることもある▼10、11月は、新聞社にとって最も忙しい時期だ。連日の取材から疲労はピークに達する。そのため、普段は注意する箇所においても、つい行動が怠慢になってしまう。特に、学祭号での私は酷かった▼疲れを言い訳に、「後でも大丈夫、何とかなる」と行動が全て後手に回ってしまった。過去の経験が根拠のない自信を作り出し、心に隙が生まれていたのだろう。さらには、備品の確認を怠ったばかりに、記事に掲載する写真を撮影することもできなかった。もし提供者が見つからなければ、取り返しのつかないことになっていた▼慣れは仕事を効率的に進める反面、時に油断を招く。今回の失態でそのことを改めて実感した。新聞を発行できるのも残りわずか。悔いを残さないためにも初心に帰り、丁寧に作業に当たりたい。（冑）